

はにい

考えを引き出す

2012. 6. 4.

「えー！なんで？」

電気ブランコが前に動きました。各グループに用意された電気ブランコはすべて教師の手作り。

「これ、向きを変えたら逆になるんじゃない？」電流や磁石の向きを変えたり、電流の大きさを変えたり、自在に器具を操り、子どもたちは気づきを対話していきます。それにしても、テーブルを見て歩く教師の楽しそうなこと。



電気ブランコの実験



リニアモーターカーの実験

続いて、リニアモーターカーの演示実験。子どもたちが教師の周りに集まります。「いいなあ、見ててよ。」

2本のアルミパイプのレール上を別のアルミパイプが転がるのを見て、ここでも疑問の声が上がり、子どもたちは気づいたことをワークシートに残していきます。これが後半の対話の素になる。

今日のテーマは「モーターはなぜ回るのか？」モーターも教師の手作り。

中山先生に、手作りの実験器具にこだわる理由を聞いてみました。

「もちろん、子どもが興味を持ちやすいというのはあるんですが、それよりも、考え方を引き出しやすいんですよ。」

言われて見ると、骨組みだけのブランコや、むき出しのコイル、丸見えの回路に、電圧が数えられる電池。気づきの根拠を見出しやすいシンプルな構造です。

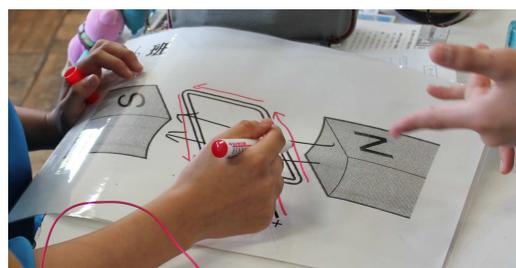
しかし、それだけが手作りの理由、でしょうか。

さて終盤、子どもたちは、実験図に気づきを書き込みながら、モーターが回る理由を対話で探していきます。その書き込んでいるシートは、実験図の紙に透明なフィルムをパウチして、水性ペンで書けるようにしたシートです。これが対話のツール。

もちろん、これも教師の手作りです。

「考え方を引き出しやすいんですよ。」

どうやら答えは、この教師の笑顔にありそうです。



かながわ元気な学校づくり通信 『はにい』とは、
学校が元気になるように・・・

先生の仕事を受ける

学校に携わる大人たちがしていることを受ける

そして、もちろん子どもたちの育ちを受取る

そんな、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。

専用メールアドレス: inochi4027@pref.kanagawa.jp